

ブラキムラとめぐる！仙台城下町ボヤージュ 【2024年4月2日放送分・東五番丁／新伝馬町】

毎月第1火曜日に放送しています。歴史家で街歩きの達人・ブラキムラこと木村浩二さんと、旧城下町に88本ある石柱＝辻標から歴史の痕跡を探る旅です。街歩きのお供には、仙台市役所1階の市政情報センターなどで販売中の冊子、その名もズバリ「辻標」が便利です。88本ある辻標の場所や周辺の歴史が、写真とともに分かりやすく解説されています。

- 「東番丁に行く！」シリーズは順調に回を重ねて、4回目。今回は東二番丁の大通りから、クリスマスロード商店街を東に歩きます。実はこのクリスマスロード商店街、かつての「新伝馬町(しんてんまち)」と、ほぼ範囲が重なります。読んで字のごとく、新しく伝馬役を仰せつけられた町です。物品や情報を運ぶべく設置された、いわば物流センター。早馬や人夫が配置されていました。
- 新伝馬町が伝馬役に加わるまで、仙台の城下町では国分町・北材木町・北目町の3つの町が伝馬役を担っていました。いずれも奥州街道沿いの重要な町です。江戸時代も中期になると、この3つの町では追い付かなくなり、東西の物流の軸だった新伝馬町が新たに役割を与えられたのです。新伝馬町という地名は、七十七銀行の支店にその名を留めています。

- ちなみに新伝馬町と、その東側の名掛丁との境は、アーケードの中で唐突にやってきます。目印は常陽銀行仙台支店。店舗前のタイルやアーケードの照明の仕様が、突然変わるのです。ここが「クリスロード」と「ハピナ名掛丁」の境目。かつての町境が、そのまま今も保たれているというわけです。今月の辻標「東五番丁／新伝馬町」は、アーケードを出た所の東五番丁沿いに立っています。辻標の位置は、厳密には名掛丁の範囲に入っているのですが、他に設置場所がなかったのかも知れませんかね(笑)。これでめでたく、88本のうち半分の44クリアとなりました。先はまだまだ長いですね…。

〈文・佐々木淳吾〉

